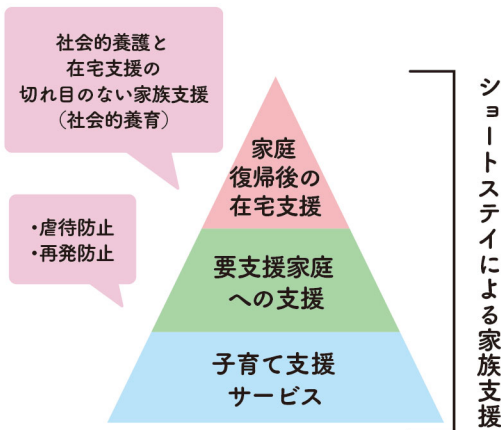


■ 里親登録数増！ショートステイ受入数増！！

そのなかで、新たな課題もみえてきた一年でした

2022年から福岡市全域で「里親ショートステイ」が始まり2年が経過しました。「ショートステイ里親」に登録される方も順調に増え、SOS子どもの村の「里親ショートステイ」の受入日数は、2022年度858日から2023年度は1329日と、1.5倍に増えました。

ショートステイの利用理由は、出張や出産などがある一方で、日常的に何らかの支援を要する家庭や虐待リスクの高い家庭まで利用する層は幅広く、必要とする家庭がショートステイを利用できるようになるためには、あらゆる家庭が利用しやすい仕組みになる必要があります。



福岡市では、里親によるショートステイの推進と施設の受け入れ体制強化によって、市全体の支援を要する家庭のショートステイ利用日数*が、全国一位になっています。しかし、SOS子どもの村の「里親ショートステイ」のうち、体制不足が理由で、受け入れができなかった件数が依然として全体の2割程度あり、前年度の3割程度に比べると、若干の改善がみられるものの、依頼の全てを受け入れるまでには至っていません。また、継続的に利用する家庭の増加により、新規で利用したい家庭の受け入れが難しくなっていることや、継続利用する家庭をどのように次の支援に繋げていくのが今後の課題となっています。*要支援家庭のショートステイ利用日数

■ みんなで里親プロジェクトって？

5つの取り組み

- ①「里親ショートステイ」の実施
利用者と里親のマッチング、各種調整、里親子・利用者支援
- ②里親リクルート
養育里親・ショートステイ里親の新規開拓
- ③里親制度・里親ショートステイの普及啓発
チラシ・ミニカード・WEBサイトの作成、ネットワーク構築
- ④里親の支援
研修、ピアサポートの仕組みづくり
- ⑤「里親ショートステイ」のサービスデザイン
行政・他機関・里親との協働



みんなで里親プロジェクトの実績 (2024年3月末)

※SOS子どもの村の取り組み実績です。

2023年度「里親ショートステイ」で支援した家族は、82家庭。そのうち、ひとり親世帯53家庭、生活保護・非課税世帯は21家庭(ひとり親世帯との重複12世帯)であり、子育てに困難を抱えやすい状況にある家族が7割以上利用しています。また、利用家族の半数近く(36家庭)がすでに区役所等から何らかの支援を受けており、「里親ショートステイ」にとどまらず、子どもと家族がよりよく暮らしていくための地域支援が求められています。

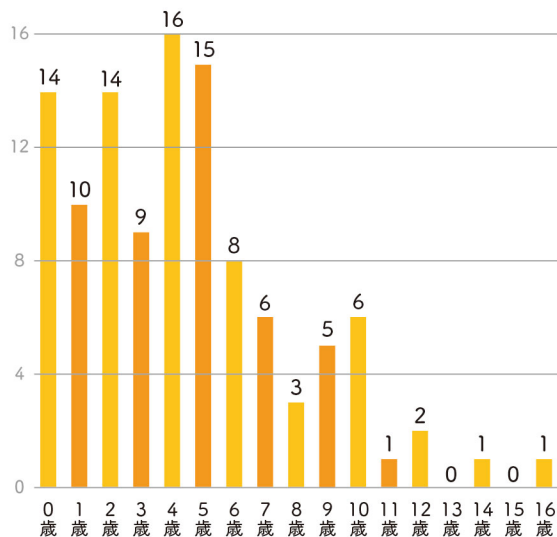


■ 「里親ショートステイ」

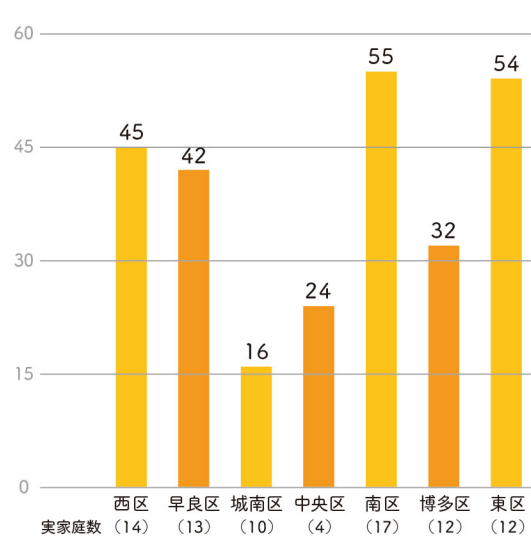
利用家庭・実施のべ件数・利用のべ日数 (2019年度～2023年度)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	福岡市西区をモデルに実施			福岡市全域に拡充	
利用家庭(実数)	3家庭	7家庭	25家庭	72家庭 (うち新規68家庭)	82家庭 (うち新規50家庭)
のべ件数	のべ6件	のべ13件	のべ82件	のべ176件	のべ268件
のべ日数	67日	102日	501日	858日	1329日

■ 利用したこどもの年齢(人) (2023年度)



■ 区ごとの「里親ショートステイ」 実施のべ件数(2023年度)



里親の普及啓発(里親リクルート)

※SOS子どもの村で登録している里親の状況です。

■ 里親を増やす取り組み

チラシ・ミニカード・Facebook・HPなどを使って広報しています。興味を持って下さった方には、毎月開催している里親相談会「里親って?カフェ」を案内し、カフェ後には公式LINE「里親のたまご」でフォローをしています。また、年に1回開催しているトークイベント「福岡みんなで子育てカイギ」では、血縁のない大家族をスローガンに福岡県久留米市で活動している「じじっか」の方をゲストにお招きし46名の方に参加頂きました。



▲福岡みんなで子育てカイギ

■ 広報の実績(2023年度)

チラシ・カードの
配布
(約7600枚)

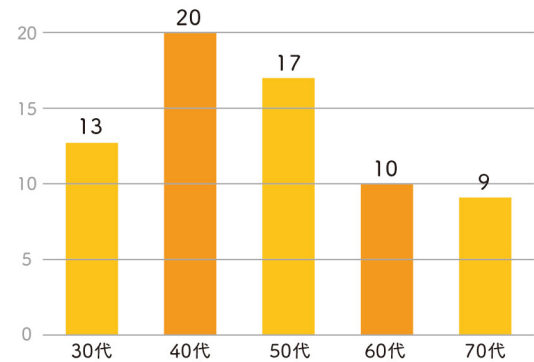
「里親って?カフェ」
個別相談の参加者
(85名)

里親登録研修
「里親カレッジ」の
参加者
(34名)

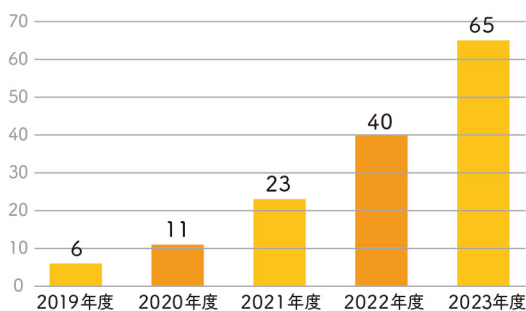
「ショートステイ里親」
の登録者
(26名)

■ 「ショートステイ里親」登録時の年齢

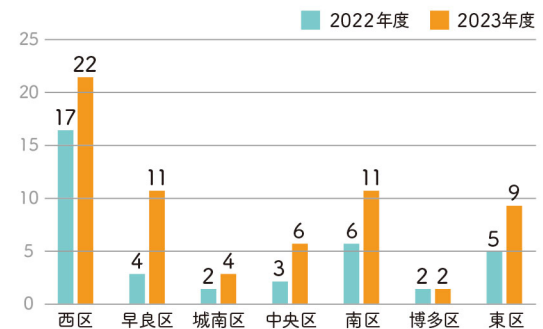
現在「ショートステイ里親」に登録している65名の登録時の年齢は、40代が一番多く、次いで50代、30代となっています。「里親」というと、例えば定年後など生活が落ち着いてからというイメージがある方もいるかもしれませんが、子育てや仕事をしているなど現役世代の方が多くなっています。



■ 「ショートステイ里親」登録数(累計) (2019年度～2023年度)



■ 区ごとの 「ショートステイ里親」登録数(累計) (2022年度/2023年度比較)



里親の支援

■ ショートステイ里親研修・交流会（年3回）

里親が感じるステイ時の悩みや気になっていることを解決し、里親同士のつながりを深めることを目的に研修・交流会を開催しています。2023年度はのべ34名の方に参加頂きました。

研修の テーマ

- 6月「子どもの安心を大切にできるショートステイ」
- 11月「ショートステイにやってくる子を理解する～里親ショートステイと一時保護の違いって?～」
- 2月「みんなどうしてる?2023～経験談や感じていることをシェアしよう!～」

【参加者の声】

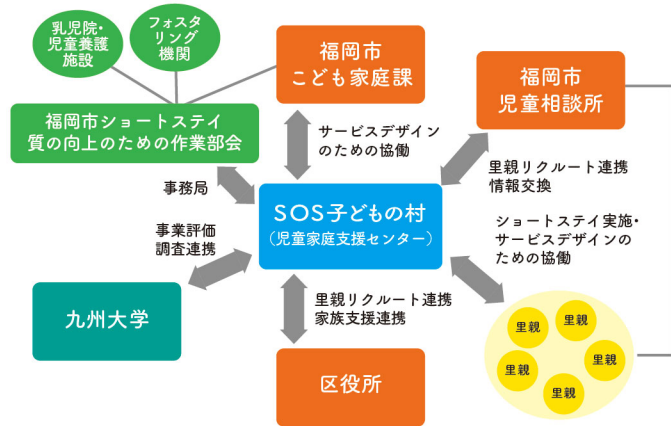
- ・いろいろな方の子どもとの接し方を聞くことができよかったです。
- ・同じ地域の方と話せたのも良かったです。



「里親ショートステイ」のサービスデザイン

■ 事業連携体制

福岡市児童相談所との里親情報のスムーズな共有により、既存里親の「ショートステイ里親」登録がすすんでいます。また、市内すべてのショートステイ実施機関との協働による「福岡市ショートステイ質の向上のための作業部会」では、ショートステイ運用上の制度的な課題や子どもと家族の支援に関する現状と課題を話し、福岡市に直接伝えることで、制度改善につなげています。今後は、里親との協働により、「里親ショートステイ」の次の仕組みづくりを目指していく予定です。



■ 里親ショートステイ全国ネットワーク会議

オンラインで全国の自治体・関係機関から134名に参加頂きました。すでに「里親ショートステイ」を実施をしている自治体・機関に、これから実施しようとしているところを加えると全体の半数以上に上りました。参加者からは事業実施に関する具体的な質問も多く「里親ショートステイ」事業への関心の高さがうかがえました。一方で、昨年同様に、利用者と里親との関係や、里親や自治体との家族情報の共有、マッチングに関する苦労など「里親ショートステイ」の共通課題も明確になってきています。



【活動報告】

- (兵庫)明石こどもセンター
- (岐阜)子ども家庭支援センターぎふ「はこぶね」
- (福岡)子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」

私たちの次のチャレンジ

- 受入率100% (体制不足による受入不可を0%に!)
- 家族をエンパワメントするソーシャルワーク力をUP
- 里親さんとの協働による家族を支える地域づくり



Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

発行者：認定NPO法人 SOS子どもの村 JAPAN

所在地：〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-3-14 ブランシェ赤坂3階

TEL:092-737-8664 FAX:092-737-8665 MAIL:foster.west@sosjapan.org

みんなで里親

検索



HPから
情報発信中!